

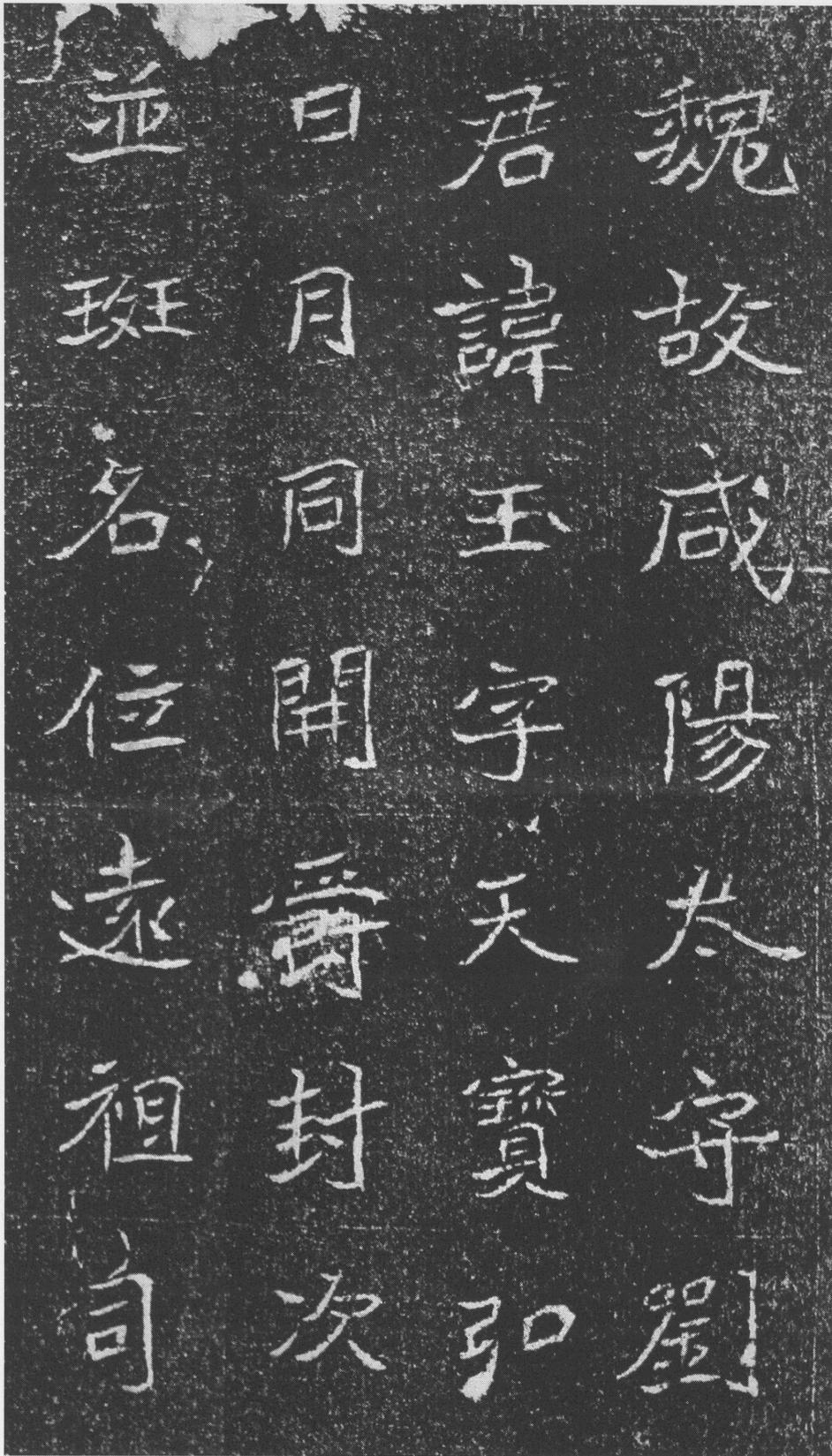
劉玉墓誌

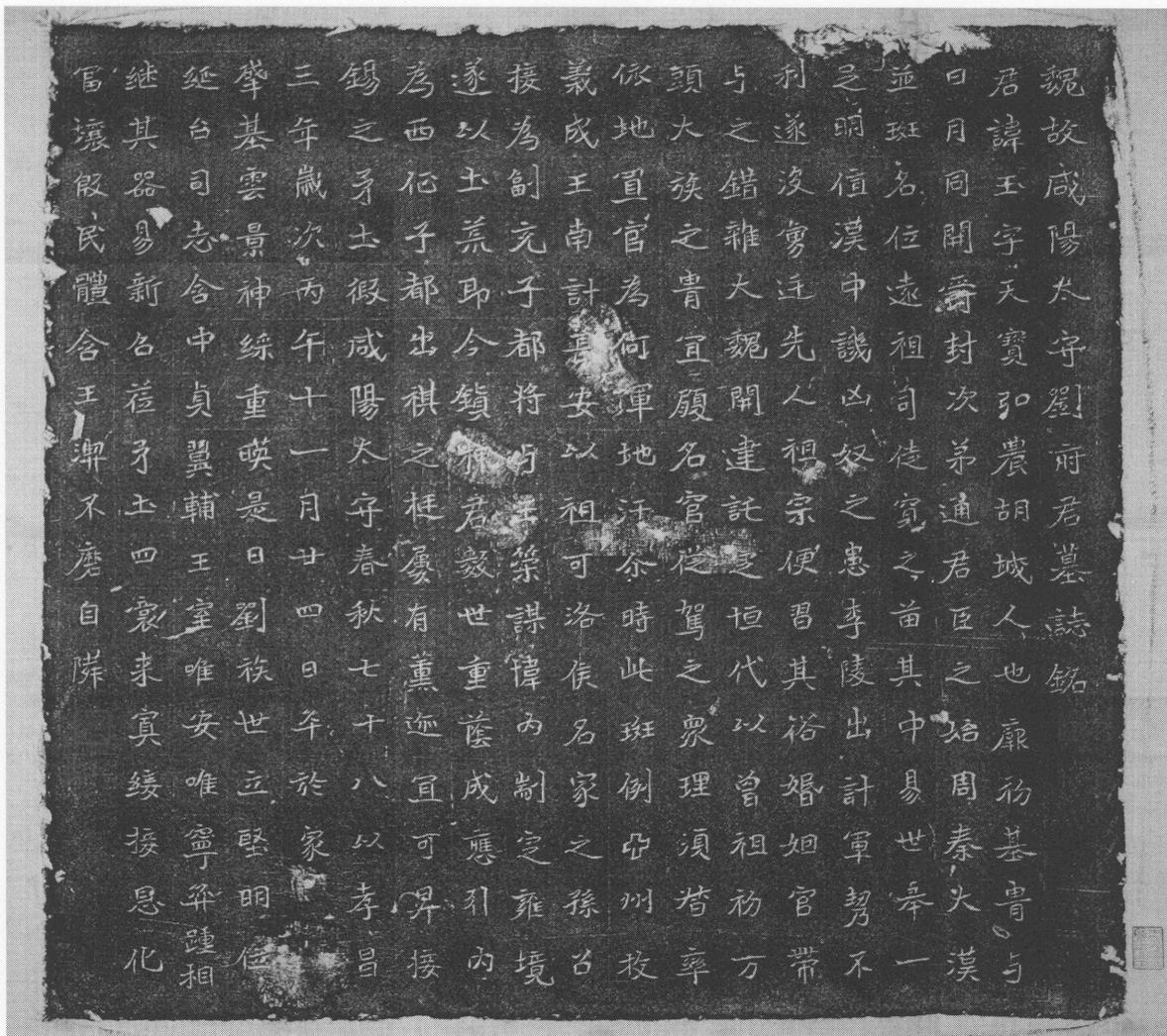
りゅうぎよくぼし

(北魏)
(孝昌三年)

木
籙

金石書画拾遺 (16)





劉玉墓誌

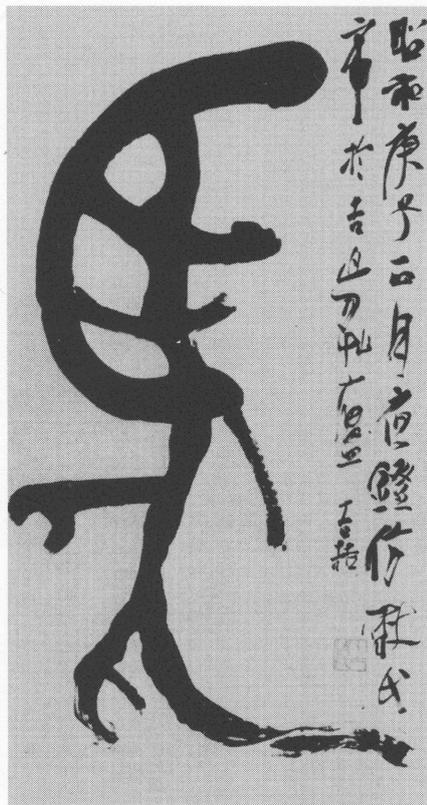
木雞室

伊藤 滋

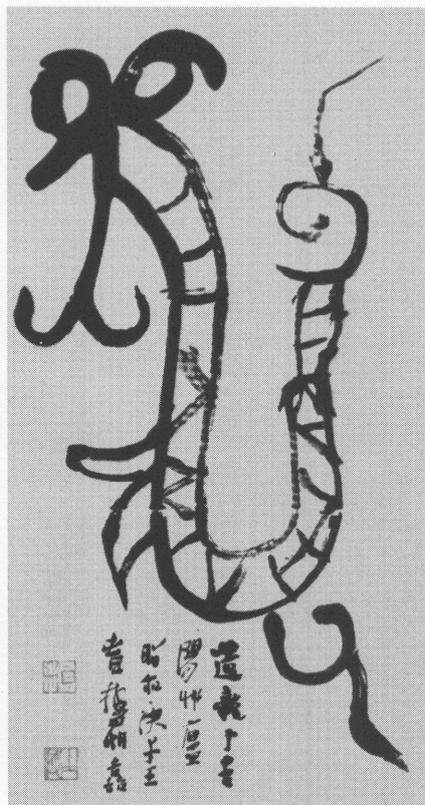
北魏末には、六朝体の楷書も完成し、さまざまの書風の刻石が見られる。

この時代にも数多くの墓誌銘が出土している。「司馬炳墓誌」「刁遵墓誌」などは、北魏体の優れたものである。図版に示した「劉玉墓誌」は六朝体の中でも独特の書風を示している。単刀で刻されたのであろうか、実に余韻を含んだ筆勢である。「皇甫麟墓誌」や龍門の草卒に刻された造像記などに共通する趣がある。「劉玉墓誌」は清末に火に遇い失われたようである。原拓本は珍しい。近年発行の『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』に所載されているが、その説明に翻刻とあるは誤りであり、原刻である。

書道芸術院 創立発起人 (13)



132cm×70cm×2



「竜虎」

昭和35年「59歳」

津金 雀仙

津金雀仙は書道芸術院創立発起人の一人であるが第一回展以後は姿を消している。

雀仙は、長野県に生まれ、比田井天来の勧めで上京、松本芳翠に師事し、東方書道会で活躍、昭和23年日展五科設立と共に出品、入選。書道芸術院が昭和23年9月「日展に関する声明書」を出した頃には、すでに退会していたようである。

雀仙は、昭和24年、25年と日展で連続特選受賞して脚光を浴びている。

この時代には、明清派、碑学派、前衛派など、主張を一にする者が活発なグループ活動を始めた時期である。

雀仙は、時代の空気を十分反映して自由で自在な造形を工夫し、豊かな情感を表現したが決して型にはまったものではない。自ら漢詩をつくり、自己の思いを盛り込んだ作品で観る者を魅了した。飄々とした運筆で、時に白痴美と評される程の雀仙の妖婉さは、やはり現代の美の一つの姿であるということができよう。昭和27年日展審査員として大活躍、前衛の書道芸術院とは遠く離れてしまった。昭和34年、日展五科で初めての文部大臣賞を受賞した。昭和35年10月死去、59歳だった。

十数年前、己巳の会（昭4生まれ）で東山温泉に遊んだ。当時、日大教授だった御曹子津金孝邦さんも参加した。よく飲み、酒席では上手に遊び、同期の連中を煙に巻いた。翌朝は、皆の寝ている間に出発して東京に帰った。あざやかであった。その後、孝邦さんの性格や作品から雀仙先生を偲んだ。
(恩地春洋記)

書のひろば

理事長 恩地春洋

書道芸術院秋季展

◇公募秋季展（審査対象）

△ねらい▽審査会員候補を対象に公募し、優れた作家の審査会員登録の一助とする。

燃える書道芸術院 審候に公募企画の秋季展

―平成19年度の事業計画決まる―

去る2月28日の理事会・評議員会で平成19年度の事業計画と予算、評議員の改選、定年による理事の交替などがあった。

○事業計画は18年度とほぼ同様の内容で、60周年記念事業が加わり、それぞれの担当役員が決定した。

第61回書道芸術院展

今期、会場、募集規定、日程などもほぼ60回展と同じ、変更部分のみ左記・会場が、1階、2階と配置が変わった。

- ・帝国ホテルの都合で、やむを得ず左記に日程変更
 - 2・10 14時 作品鑑賞会 都美
 - 2・11 10時 表彰式 帝国ホテル
 - 2・11 12時 祝賀会 帝国ホテル
- ※祝賀会が昼食時となり、表彰式が午前中、作品鑑賞会が前日となった。
- ・作品サイズに変更なし。

第59回全国学生書道展・指導者作品展

作品受付 6月8日（金）

書初誌上展

作品受付 12月8日（土）

書道芸術院講習会（単位認定）

8月18日～19日 主管北日本支局
奥入瀬溪流グランドホテル

講演会 仮題「種谷扇舟の書」

会場 グリントワーホテル
千葉泉美企画「種谷扇舟展」にあわせて、千葉で開催の予定、講師 田宮文平先生に交渉中。

第60回記念事業

1、記念誌の発行
19年9月刊行（予定）

2、役員作品巡回展（13会場）

3、海外展

(1) アイルランド・ダブリン展

・19・3・31～4・19

・アイルランドOPWアトリウム

・訪問団 3・28～4・3

(2) オーストラリア・ウィーン展

・19・8・21～24

・ウィーン市民大学

・訪問予定 8・20～8・26

鳥山岳風理事が退任され、砂本杏花
宮澤梅徑氏が推薦され就任する。

平成20年3月31日迄

2、評議員の改選（（理事会）

理事会において任期満了の評議員の改選が行なわれ、新評議員が選任された。

△新任▽20名

- 石井明子 加藤眺 小竹石雲○後
- 藤大峰 小浜大明 小林琴水 小伏
- 小扇 斎藤雨城 嵯峨大拙 坂本素
- 雪 下谷洋子 滝 春芳 種谷萬城
- 千葉蒼玄○千葉耕 風○津田和秋 外
- 所思水 名越蒼竹 牧 泰濤 山田
- 梓江

△退任▽上柳佳規

△理事へ▽砂本杏花 宮澤梅徑

3、名誉顧問に小伏竹村

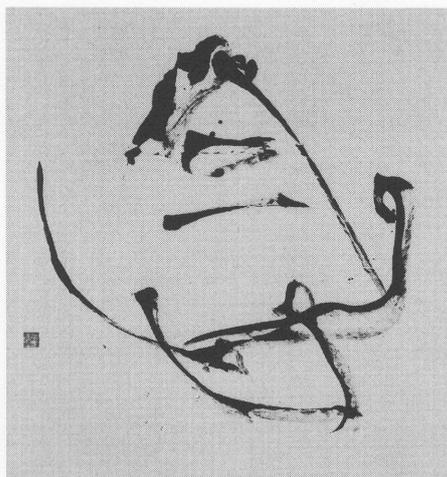
ご勇退の二氏「岳風」は理事会で推薦され右の通り、理事長が委嘱した。

伝統と創造と 横山大観

芸術は時代により変転するものであるから、伝統の尊重、継承すべきのみを知ってただこれを墨守し、これが開発を怠り、不断に更新する、のでなければ、その生命は硬化し、遂にその本源を枯渇させるだろう。だから、伝統の尊重を維持する一面において、常に時代に超越し、一世を啓導するに足るべき新芸術の興起をはからなければならぬ。

漢字 (一)

上妻華竹



上妻華竹書

平成17年2月
現代女流新進作家展出品作品
「念」(甲骨)

年末にこのコーナーの原稿依頼をいただき、ハタと困ってしまいました。「私の主張」って何？ 自分に問いかけてみましたが、これという答えがでてこないで思いつくままペンを走らせてみます。

展示会の度に、まず素材選びに悩みます。書きたいと思う素材が心にある時は、ワクワクしながら作品制作に時を忘れることができます。でも残念ながら、そんな事は余りありません。書きたいものが心に湧いた時だけ書きます。

来年にこのコーナーの原稿依頼をいただき、ハタと困ってしまいました。「私の主張」って何？ 自分に問いかけてみましたが、これという答えがでてこないで思いつくままペンを走らせてみます。

21世紀の書

—私の主張—

前衛書 (一)

真下京子



真下京子書

2006 ソウル世界書藝祝祭 — 日本女性前衛書道展出品作品
出品作品の前で 題名=独自その2(左) 独自その1(右)

2006年3月に、突然韓国ソウルより世界書藝祝祭の一環である「日本女性前衛書道展」への出品依頼状が届いた。

の書の位置づけを指すというような趣旨である。

私は丁度このころ、作品がマンネリ化しつつあった。「不死鳥」「蘇生」シリーズに取り組んでいたが、新しい試みをもち前衛書を再認識すべく試行錯誤の時であった。

そんなこともあって是非参加してみたい、5月の連休明けに訪韓、世界書藝祝祭の行事に参加した。

まず驚いたのは、各国とも書の革新が想像以上に進んでいることであった。この書展もソウル市の助成金で開催され、外国作家は招待であるとのこと。

また韓国の青年作家12名の作品が斬新にして時代性を持っていてのこと。

何より、国境を越え世界にこんなにも沢山の同志がいるという事実であった。

50年来、私が出てきた前衛書への想いに火が灯ったのであった。

次号より、自らの前衛書の歩みを振り返りつつ、21世紀の書について私なりに考えてみたい。

〔解説〕 顔氏家廟碑は顔真卿が父の顔惟貞のために廟を建て、先祖以来のことを詳しく述べたものである。廟は壊れ、碑も倒れていたのを、宋初に重立された。四面刻、二〇〇〇字をこえる晩年の代表作。重

刻して建てたかどうか、はっきりしない。特徴として、起筆に筆鋒をくくめて蚕の頭のようにし、波法の終りを一度押えてから筆を上へ抜くので尾が二つに燕尾のようになる。「蚕頭燕尾」(編集部)

注 漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨
(押印のみ可)



昔孔悝有夷

鼎之銘。陸機

有祠堂之頌。

古筆鑑賞

37

かな研究部

香紙切 (伝小大君)

①

遊ユくみちも見春ハルけき介ものを支ほと本と毛ぎず

こルゑ路に万ころ利のと可まり奈ぬ可る奈かな

む无ら可か見みの東御多とき八の世うハたハあハはセせ

よ見み見人見し見ら見ず見

あ可ふ可こと可を可い可つ可か可と可ま可つ可にあ免や免め免ぐ免さい免いと免と免

こ日ひ日ぢ日にし日げ日る日め日る日かな日

〈解説〉

虫よけに楮紙を丁字(フトモモ科

の常緑高木)などで染めた料紙を用

いているため、この名で呼ばれる。

もとは粘葉装の冊子本で、撰者や成

立年代ともに未詳の私撰集「麗花集」

の断簡である。「麗花集」は、「後撰

和歌集」序や「古采風躰抄」などに

その名を見い出せるが、完本は存在

せず、同じく「麗花集」を写した

断簡の伝小野道風筆「八幡切」を含

め、120首余りが知られるにすぎない。

書風は、軽妙鋭敏で、繊細な筆致

が自由奔放に淀みなく動き、清爽優

麗である。(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、

もしくは〇〇臨

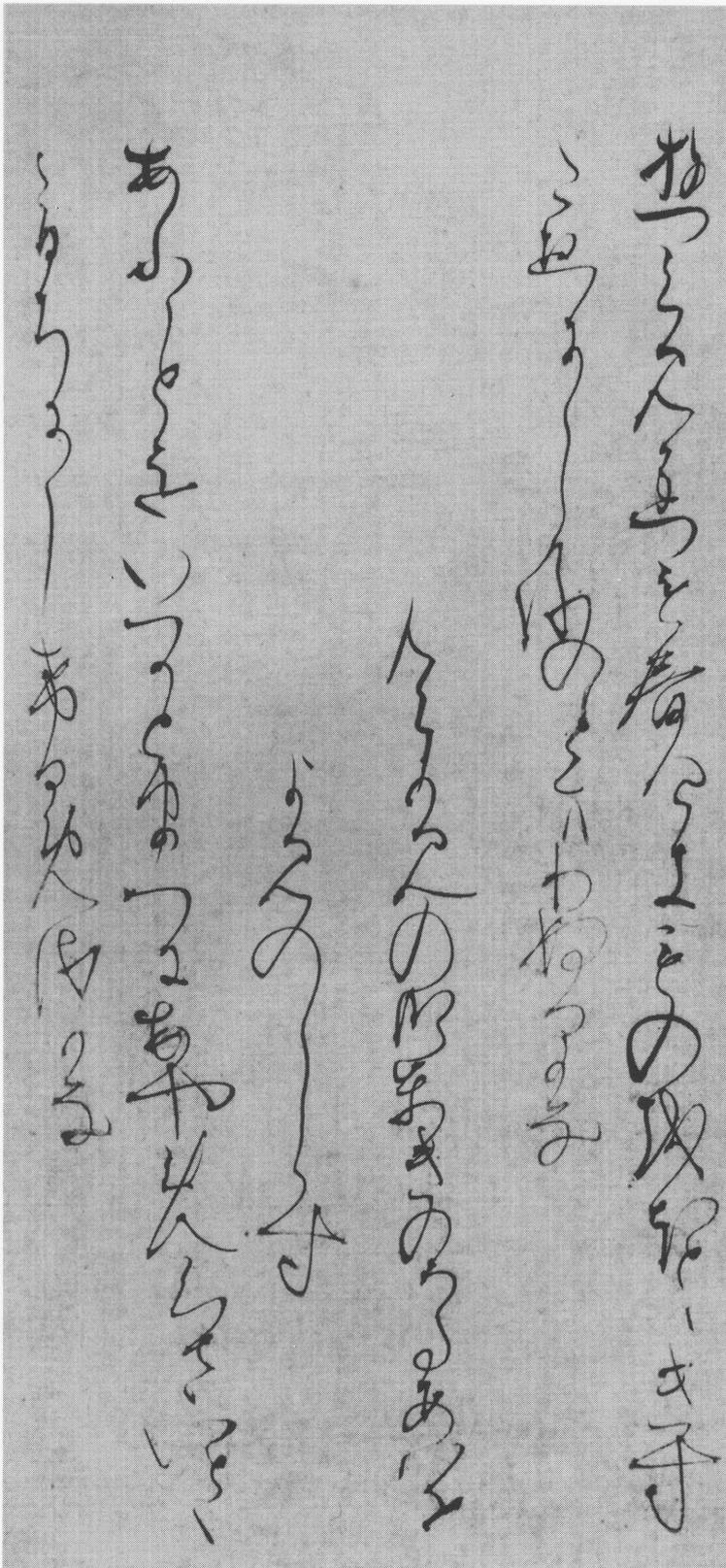
(押印のみ可)

用紙

・半紙普通判(料紙可)

〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。



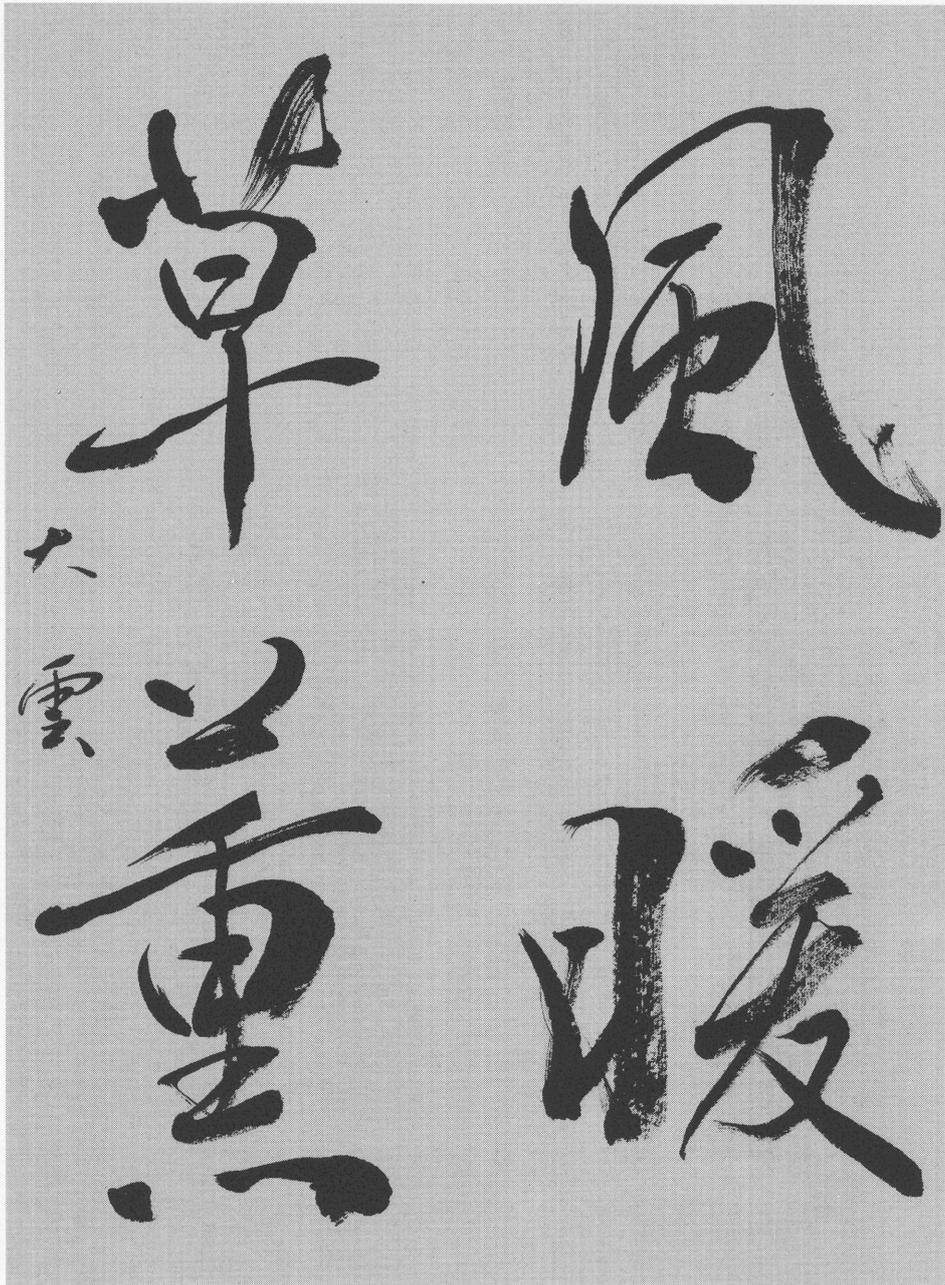
漢字規定 初段以上【五月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書

風 暖 草 薫

よみ (風^{かたか}暖^{かお}く草^{かお}薫^る)

書体 自由



習い方解説 (一)

辻元大雲

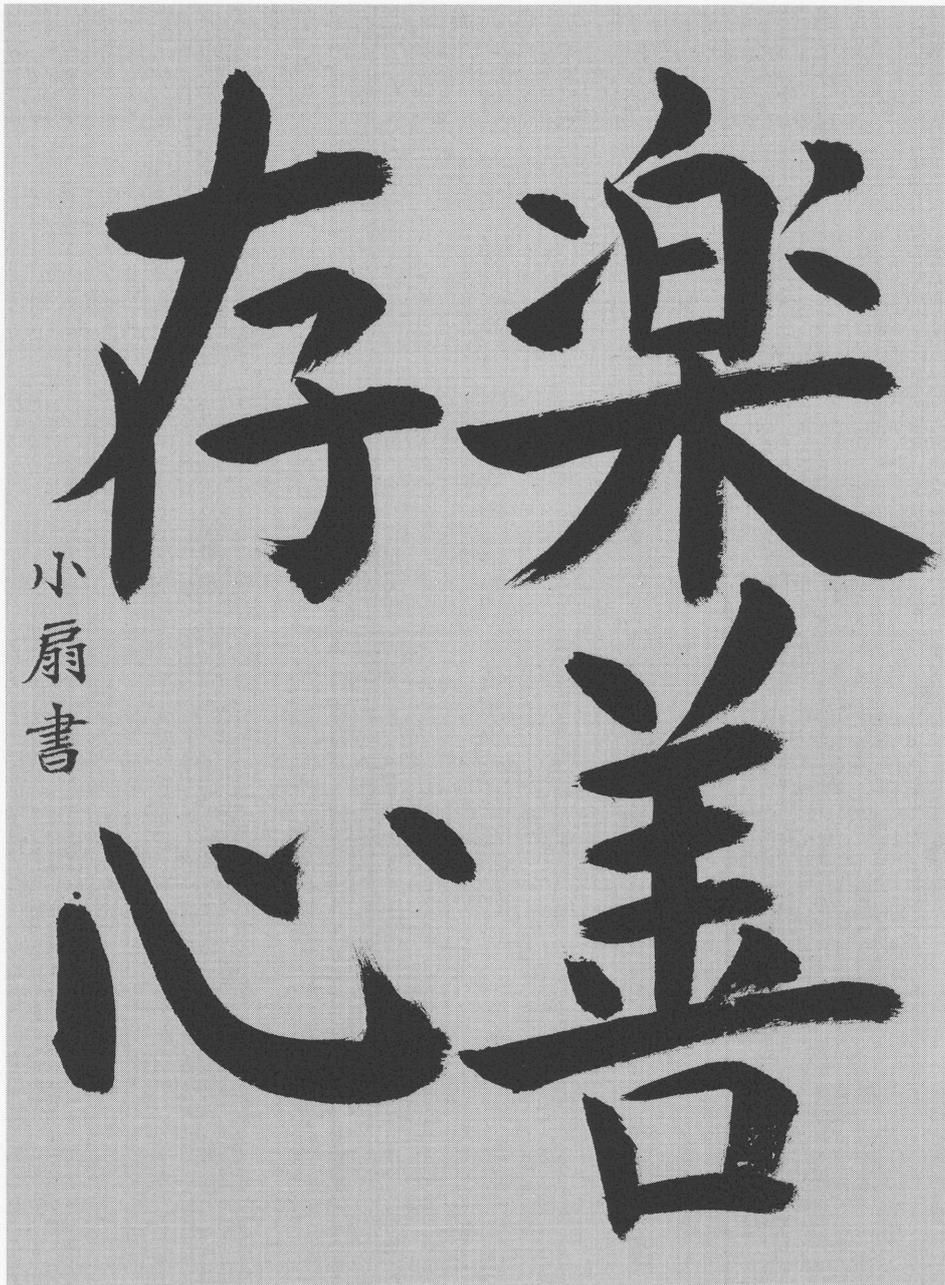
風暖草薫
(風^{かたか}暖^{かお}く草^{かお}薫^る)

今回から6回担当します。参考例は概ね行草体としました。書体自由ですのでいろいろな書体、書風による多様な表現を試みて下さい。

半紙という限られた紙面にいかに表現するか、小なりといえども学書の基本としては欠かせないものです。四文字あるいは多字数表現にしるバランスよく、基礎的な学習をしながら創意溢れる表現にも挑戦してみましょう。特に用筆の工夫は、筆をいかにうまく使いこなすかであり、筆毛の種類や形状の違いにより大きく変わってきます。それぞれの筆の機能に合わせ、筆の持ち方や運筆のリズムも異なります。いろいろ試してください。今回は四字句をやや柔らかい羊毫長鋒による行書表現としました。

漢字規定 秀級以下 【五月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

小伏小扇選書



楽善存心

よみ (善を楽しみ心に存す)

書体 楷書

習い方解説 (一)

小伏小扇

楽善存心 (文徵明)

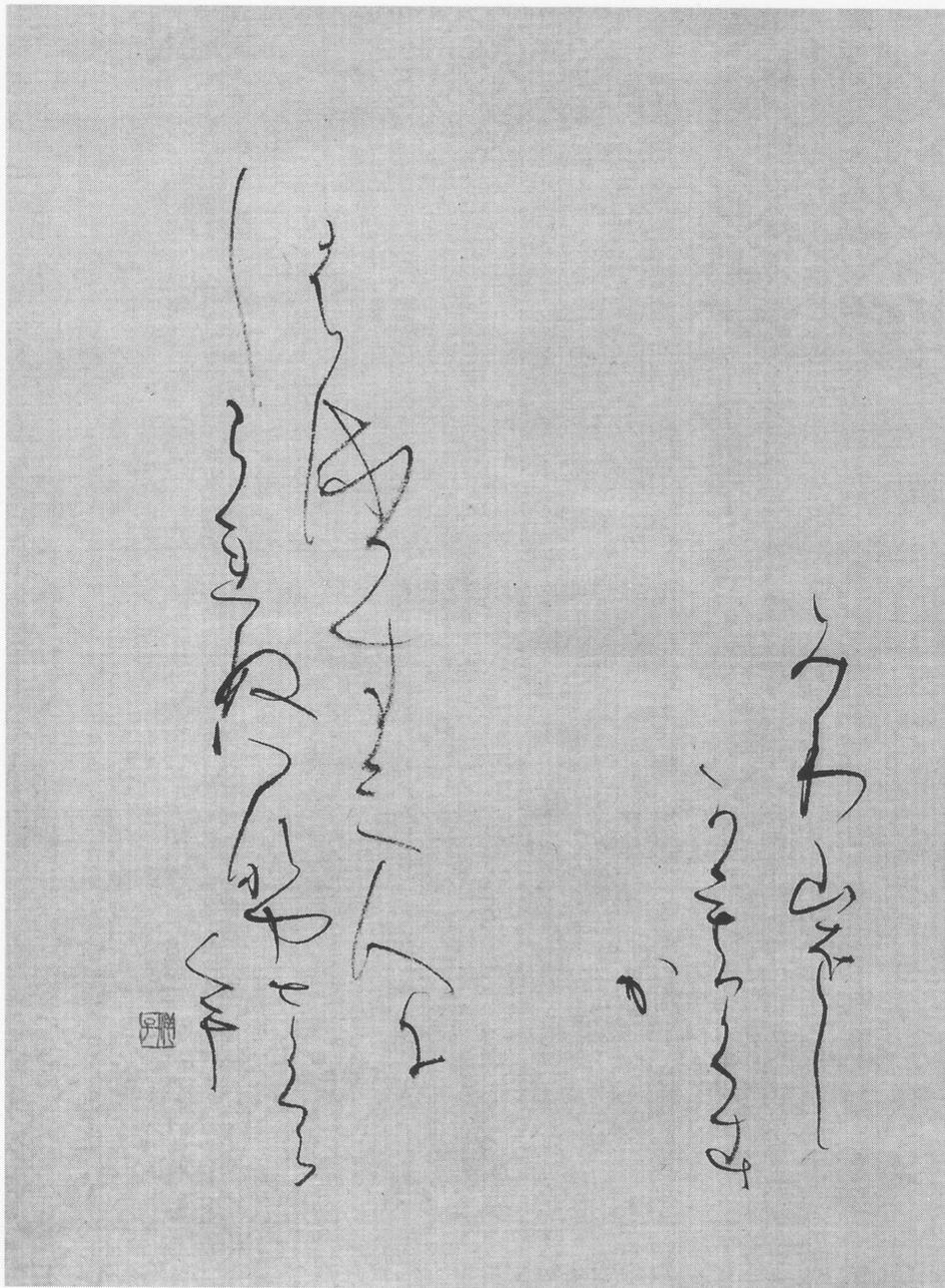
(善を楽しみ心に存す)

善を楽しみ忘れないように心にとどめる。

今回は王羲之の楽毅論を参考にしました。八楽毅論は三国の時代に魏の夏侯玄という人が作った文章で、楽毅とは戦国の時代、燕の昭王の幕僚として活躍した人物で、その人について論じたものです。文字の形は巧妙で、気品高く温雅な味わいがあります。横画の打込みは、浅い角度で入り、極端に筆圧を加えないよう運筆します。「心」の形は右上への末広がりで、下部は水平一線上に、ほぼそろえて書いてください。

かな規定 初段以上【五月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書



習い方解説 (一)

下谷洋子

三輪山をしかも隠すか春がすみ
人に知られぬ花や咲くらむ

(紀貫之)

古今集に、敢えて春の歌として詠むと詞書されるこの歌は、第一・二句は万葉集の歌詞をそのまま借りたもので、貫之青年期の作とされています。

かなは、変体があるので読みにくいと言われます。一方で、かなはリズムにのって動きます。大切なのは流れです。特に散らし書きのような形式では、単純な平がだけの姿では、却って連綿も行も自然なリズムは作れません。ただ、小字の場合は、複雑な変体がなは避け、簡単なものを使う方が流れに自然さが出るでしょう。創作にあたっての文字の変換は、無理なく続けられること、これを念頭にしましょう。

よみ方 みわ山をし／か(可)も(毛)か(可)く(久)す(春)／か／は(者)る(流)が(可)すみ(三)人に(尔)

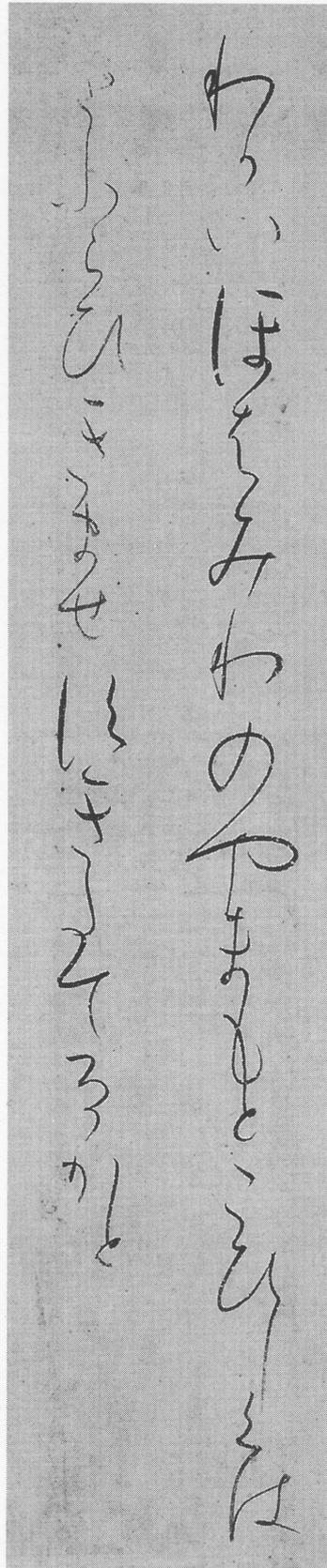
しられ(連)ぬは(八)な(那)やさく(久)ら／む(牟)

創作

かな規定 秀級以下 【五月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連続)を臨書する。

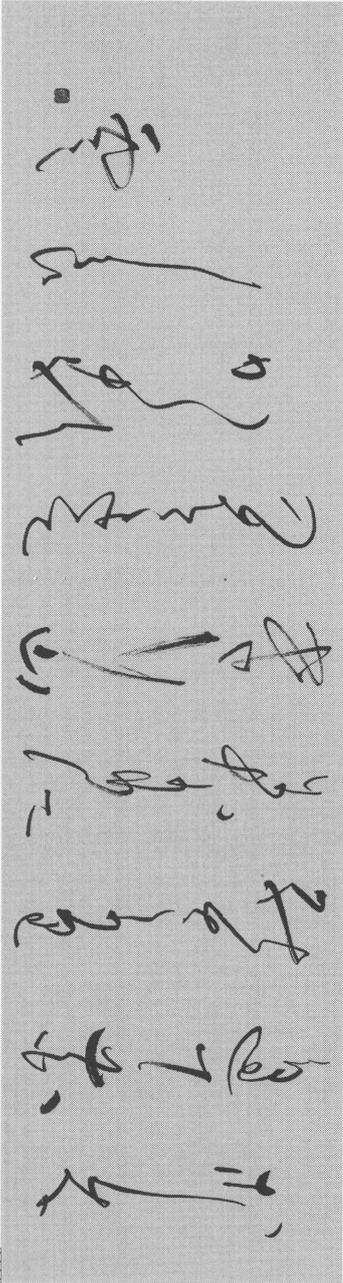
高野切第三種



よみ方 わが(可)いはほ(者)みわのやまもとこひしく(久)は とぶらひきませす(須)きた(多)てるかど

かな条幅規定 【五月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

石井明子選書



よみ方 お(於)しな(奈)べ(辺)て花の(能)さか(可)り(里)に(尔)なり(利)に け(遣)り山のは(者)ごと(二)かか(一)る(類)し(良)雲

*横作品につき出品券の位置はここに

創作

習い方解説 (一)

石井明子

おしなべて花の盛りになりにけり山の端ごとにかかる白雲

(西行)

条幅横物は、一行の字数が少なく、隣接の行と同じ字数になることが多々あります。今回は花、山、雲のやさしい漢字を使用し、変化を求めてみました。連綿線の多い行、一字ずつを独立させて書く行、真直ぐな行、湾曲させる行等の組み合わせを考えて構成してください。墨継は行頭を避けた方が無難です。墨量はひかえめの方が上品です。

*よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【五月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

故人西辭黃鶴樓
烟花三月下揚州
萬城

故人西辭黃鶴樓 烟花三月下揚州(李白)
(故人西のかた黃鶴樓に辭し、烟花三月揚州に下る)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下【五月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

萩原香扇選書

風暖鳥聲碎
香扇

風暖鳥聲碎 (杜荀鶴)

(風は暖かくして、鳥声碎かる)

書体||自由

習い方解説 (一)

種谷萬城

李白の七言絶句「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」の前半二句を採りました。昨夏、湖北省の武漢を訪れ黃鶴樓に上りました。長江の雄大な風光を眺め、悠久の歴史を感じました。敷地内に、中国の現代書法家を代表する沈鵬先生が揮毫されたこの詩の碑がありました。見応えのある巨碑でした。

習い方解説 (一)

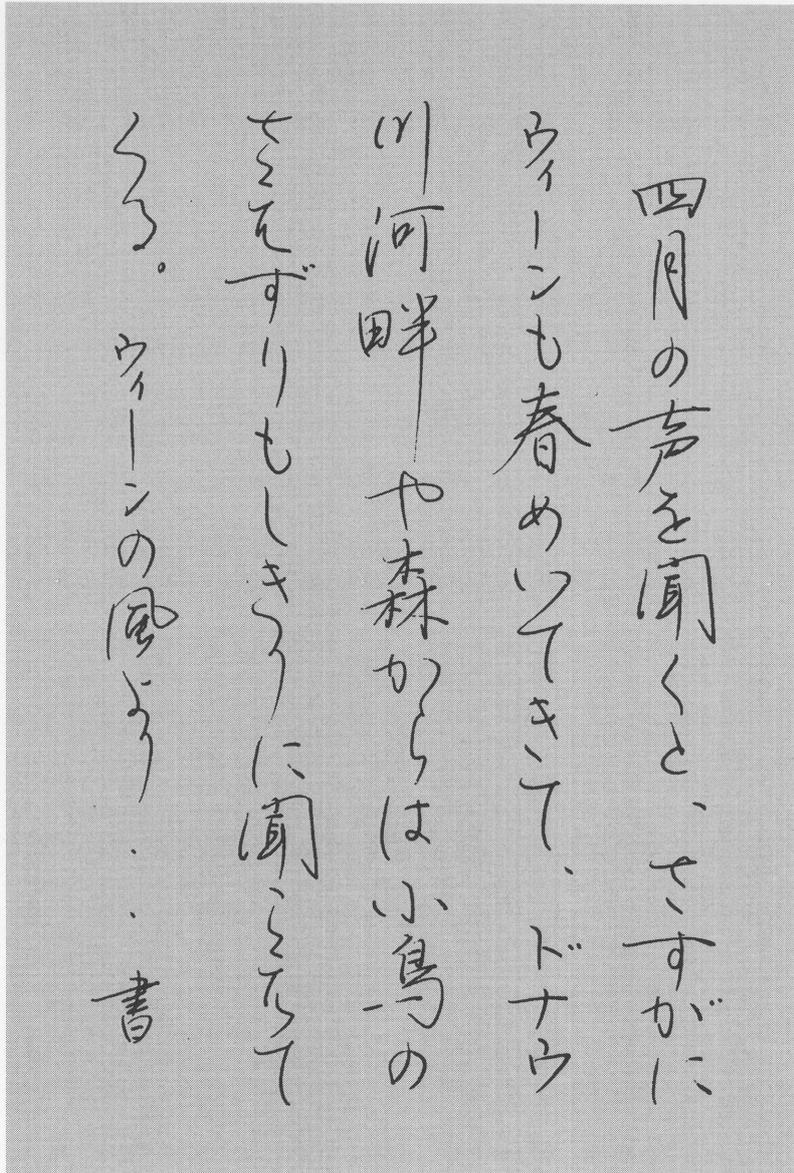
萩原香扇

私は作品を作る時、出来るだけ詩の内容を表現するよう心にかけています。今回もそう出来ればと書いてみました。

暖かい春風、鳥の声もはずんであちこちに飛びちるという春の詩を選びました。自然な用筆で、大らかに書作してみてください。

ペン字規定 【五月二十日締めきり】

川島舟錦選書



用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

習い方解説 (一)

川島舟錦

ウイーンの日本人学校長として赴任したときから20年近くたった今も、毎年訪問し続ける谷脇梅翠先生。ウイーンは長い歴史の中で、音楽や絵画などの芸術を大切に育み、その水準の高さをあちらこちらでうかがい知ることができます。書道芸術院高知選抜ウイーン展も今年で10回を数えます。

谷脇梅翠著『ウイーンの風』の中からペン字課題をいただいて、ウイーンに思いを馳せながら練習していただきたいと思えます。

漢字(大)、ひらがな(中)、カタカナ(小)、の大きさに気をつけて書いてみましょう。

※落款を入れ忘れないようにして下さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

ホープ作品 各部総評

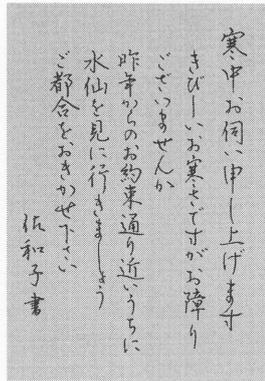
NO. 549

ペン字部 師範 沖 佐和子

微妙に太細の変化をつけ、流れるようなリズムが旋律を奏でる。

行間、字間の余白も冴えて明るい。

◎ペン字部総評 ペン書きといえど運筆には作者の呼吸や息づかいが表れる。気が急くと筆致も乱れ、線がざわつきます。(澄神評)



かな条幅部 準師 滝沢ふさ子

紙質の関係で渴筆がやや足りなかったのが残念だが、線の末端までの厳しさは圧巻、韻致が高い。

◎かな条幅部総評 毎回のことですが変体がなほ原字をよく確かめて書くこと。特に気脈の部分に理解不足が見られます。(洋子評)

前衛書部 特選 石下 翠葉

思い切った構成の直と曲の線は強と弱のバランスを取りつつ、そのぶつかり合う力を感じ取れる。

◎前衛書部総評 半数は空間美の表現がよいと思う。初心者は文字脱却に書き込み努力を。(蕙芳評)



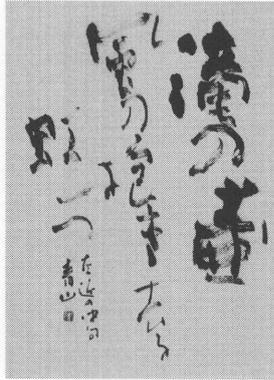
漢字条幅部 師範 長島 優雨

単体で訥々と書き進め、淡墨の味わいと共に、余韻のある作となった。表現停止のねらいがよい。

現代詩文書部 特選 熊谷 青山

横画にスピードをつけての大きな円運動が力強いうねりとなり、活力ある作品になっている。

◎現代詩文書部総評 創意工夫は大切だが、根本である線の鍛錬を怠らぬよう。(石雲評)



◎漢字条幅部総評 色々な技術を習得するのも学書のねらい、計画的に進めること。また、何を訴えたいかが一番大切なこと。(春洋評)



漢字部 師範 竹浪 叙舟

顔法楷書の風を得て、太細の変化を鮮明に打ち出す。鋒先の鋭さを生かし表情に変化をつけて妙。

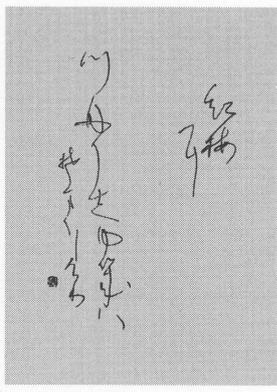
◎漢字部総評 上級五文字表現は楷行は安定、草書の字形不安定作多し。大胆な表現を期待したいが、無理な造形は避けたい。(大雲評)



かな部 師範 富岡 容子

洗練された粘りの強い線が美しい。二行めと三行めの字粒の変化が効果的で爽やかな作品となった。

◎かな部総評 全般に字の大きさの把握がよく、安定感と華やかさをもつ作品がふえました。堂々と表現できている成果か。(明子評)



特別研究部
優秀作品(特選)

現代詩文書

(安波) 鈴木英晴

「若山牧水詩」

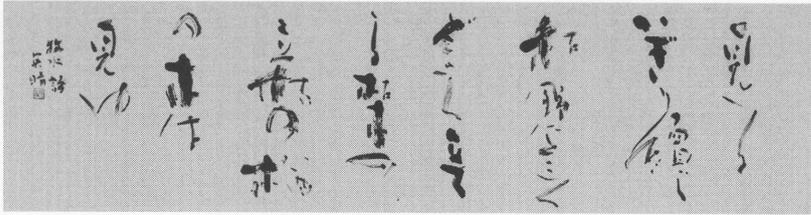
◆柔らかな味ある潤渾の変化が広く空けた行間と調和し、明るくリズム感ある作となった。ほのぼのとした情感が伝わってくる。(大雲評)

◆複雑な線の響きが次第に高まっていく。字形の組み立てが横への広がりを見せ、横への突っ張った線はない。おだやかで静かな性格だろう。(春洋評)

◆派手な大胆さはないが、濃墨を深く沈めて筆毛の慈味を出す。行間が明るく、思わず読んで引き込まれる滔々としたリズム感が魅力。(洋子評)

◆淡々と書き進め変化が少ないように見られるが、一本一本の線はリズムを持って変化している。詩情の高まりがほしい気もする。(蒼玄評)

鈴木英晴書



前衛書

(山王) 鈴木春江

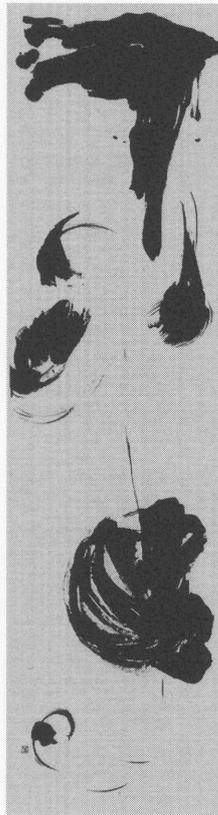
「舞う」

◆静かで温かい。淡墨が余白にとけ込んで穏やかな雰囲気をかもしだしている。このやわらかさが主題だろう。品があるのもよい。(春洋評)

◆墨色のためか、全体に柔らかに軽快な春の光を感じる。多様な運筆のリズムで、余白を自然に動かし爽やかに仕上げた。温雅な響きだ。(洋子評)

◆柔らかに広がる丸と渴筆が全体をつつみ温か味を感じさせてくれる。潤渾の表現もよいがどこかに強さのある直線がほしかった。(蒼玄評)

◆やや中濃墨を使用、にじみの少ない用紙により微妙な濃淡の変化、運筆のリズムによる表情の違いをねらう。細線が微かな動きを見せる。(大雲評)



鈴木春江書

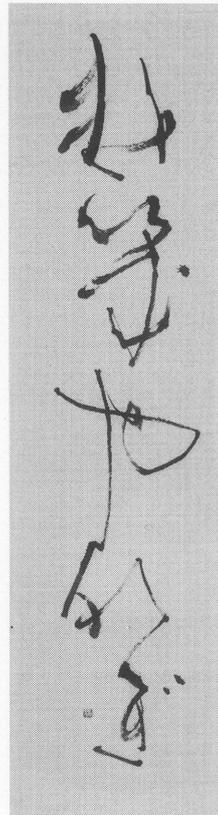
総評

文字は絵文字から発展し現在の形となった。私たち日本人に文字は抽象(わからないもの)か、具象(すぐにわかるもの)かとの問いかけをすると、具象であるとの答えがかえってくる。それは読めたからとのことからであるが、読めることとわかることでは全然意味が違うのである。

私たちの作品はダブリンの人達にはどのよう映るのだろう。読めるよりわかる(伝わる)作品であってほしいと思う。今回は93点。(蒼玄)

〈特選候補者〉

漢	一弦	木村	貴衣	現	うる	蜜波羅鳳雲
漢	千葉	東原	扇桜	現	炎佳	佐藤
漢	声香	米倉	聲香	篆	墨宣	中山
漢	蓮紅	千葉	華紅	前	大拙	大庭
漢	志引	鈴木	朝夫	前	清流	渋谷
漢	翠苑	佐々木	豊苑	前	清流	渋谷



前田まさ美書

かな

(卯月) 前田まさ美

「ゆきやなぎ」

◆強靱な線をねらい超大字がなに挑戦その心意気が筆意によく表れている。細線の鋭敏さは出たが、さらに筆の回転に沈潜した余裕がほしい。(洋子評)

◆半折に一行五文字のかな作品は珍しい。大字がな作は何より線の切れ味と文字造形がきめ手。書き出し「二字にも」と切れ味がほしい。(大雲評)

◆大胆な大字がなへの挑戦と見る。線は強さもあるが筆が細かいかも、否、文字が少し大きすぎたかもしれない。何れにしても更に攻めて。(春洋評)

◆漢字の草体を強い線でまとめている。かなは本来小さいものとの考えを打ち破る方向がうかがえるが、全体としての流れがほしいと感じた。(蒼玄評)

前衛書

(蓮紅) 大友紅蓉

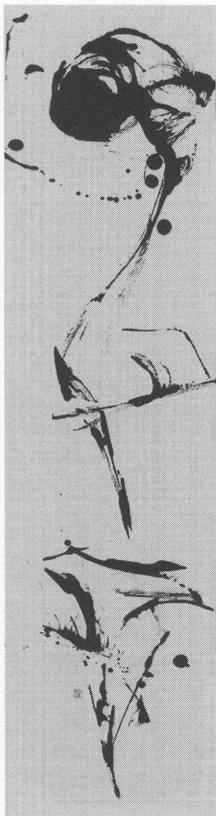
「出会い」

◆切れのよい線が空間をひきしめている。墨の飛沫も的を得てよいが墨の濃淡の工夫が今一步である。構成も安定しすぎた感がある。(蒼玄評)

◆中央と下の構成が少々似通ったのが残念だが、切れ味の利いた動勢が作品の規模を大きく見せている。造形の中の白が美しく品格を感じる。(洋子評)

◆やや厚手の画箋に潤濁の変化を鋭い筆致で表現している。書き出し部やや重すぎる感があるが、三段階のリズムが小気味よくまとまる。(大雲評)

◆紙を切る鋭さが快い響きを発する。造形も鋭く、余白にも緊張感が走る。縦長のまとめ方とすれば、中、下やや単調か?(春洋評)



大友紅蓉書



高橋小汀書

現代詩文書

(舎人) 高橋小汀

「中原中也詩」

◆器用にまとめた作品と見える。筆は小さ過ぎるか、響きが足りない。芸術だから技術も必要だが、うまい人は心の問題を絶えず考えるよう。(春洋評)

◆白が輝きを持って迎えてくれる作品だ。コントラストが強いせいか可読性に疑問もあるが、それを差し引いても完成度は高い作品だ。(蒼玄評)

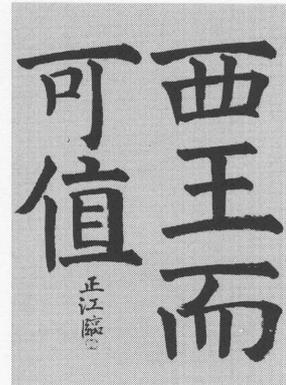
◆扁平な結体の大小のバランスが洒落た味を醸し出している。中也の癖のある内容にはこれ位の意匠も必要かと思う。やや甘い線が気になる。(洋子評)

◆横展開作として中央部のふくらみと左右がうまく調和している。潤濁の変化も巧みでまとまりあり。無理な字形と感ずるところ若干あり。(大雲評)

漢字研究部
(孟法師碑)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



横井正江

漢字研究部 特選 横井 正江
筆をそっとおき、穂先を隠した始筆。圧を加え弾力を利用した終筆。転折も方筆、円筆を使い分け、また筆を突き上げるようにして引きおろしたのもある。原帖の特徴をよく理解。線も確かで伸びやか。更なる躍進を。
◎漢字研究部総評
孟法師碑は整齊な字形でゆるぎなく、温かさもあるので初心者にとっては最適の教材と

いわれている。しかし、方円併用の技も隠れており、侮ってはいけない。
例えば◎横画、筆圧を次第に加えたもの、途中で吊り上げたもの、始筆からそのまま運筆したものなどある。◎転折、西、而、青、而などそれぞれ違う。◎右払い、短かめに押し出すように払ったものもある。こうした基本点画について見方のあまい方もいました。

孟氏諱静

青雲之衣

法師俗姓孟氏

易龍

青雲之衣

青雲之衣

絹白萩文須祥
子扇香江寿映

法師俗姓孟氏

度世之寶術

豈非度世

西王而可値青

法師俗姓孟氏

馬法師俗

和登杏枝松彩
美枝仙美春舟

馬法師俗姓孟

西王而可値青

西王而可値青雲之衣師東陵而易龍豈非度世之寶術登遐之妙道馬法師俗姓

法師俗姓孟

馬法師俗

豈非度世

英久松敦洋梢
美鳳子子琴

豈非度世之寶

俗姓孟氏諱静

西王而可値青雲之衣師東陵而易龍豈非度世之寶術登遐之妙道馬法師俗姓孟氏諱静

世之寶術登遐

西王而可値青雲之衣師東陵而易龍豈非度世之寶術登遐之妙道馬法師俗姓孟氏諱静

馬法師俗姓孟

澄幸由僂雅青
水平子雨子山

特別昇級試験

一、しめきり日 5月20日(日)

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
 - かな 一種、二種、三種
 - 漢字条幅 一種、二種、三種
 - かな条幅 一種、二種
 - ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

二、応募資格

- 一人で幾つの部にも応募できる。
 - 第一種 現在級が優級〜10級、新規
 - 第二種 現在級が初段〜3級
 - 第三種 (4〜10級の方は受験できない)
- 現在級が準師範〜秀級 (優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は3月号△5月号▽写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

創作文字は新旧字体どちらでも可

漢字部

第一種 (一枚)

楷 半紙にたて長に使用
楷 九成宮醴泉銘 (指定箇所より4文字を臨書)

第二種 (計一枚)

楷 孟法師碑 (指定箇所より4文字を臨書)
行 春鳥暢^{のフ}歡情^{のフ}
よき春に鳴く鳥の声を聞いて歡樂の情を舒暢する。

かな部

かな部 半紙にたて長に使用 (料紙可)

第一種 高野切第一種 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

第二種 (計二枚)
和漢朗詠集 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)
創作 岩すべる水にうつぶす椿かな (高野素十)

第三種 (計三枚)
高野切第三種 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

臨書 寸松庵色紙 (半紙一枚に指定の歌を一首書く)

創作 別紙を裁断して貼付は不可。見渡せば比良の高嶺に雪消えて若菜つむべく野はなりにけり (平兼盛)

漢字条幅部

第一種 (一枚)

楷 または行 小画仙紙半切にたて長に使用
創作 楽意^{ありせん}在^{せき}泉^{せき}石^い (呉泰来)

第二種 (計一枚)

楷 顔勤礼碑 (指定箇所より14文字を臨書)
行 一^{すてん}聲^{しん}啼^{せん}鳥^{せき}破^{かん}春^{かん}寂^{せき}
數^{すてん}點^{しん}落^{せん}花^{せき}生^{かん}暮^{かん}寒^{かん}

第三種 (計三枚)
池 春暖^{あたたか}欣^{こころ}魚^{いさな}出^い一^い
翠^{すい}帳^{ちやう}風^{ふう}和^わ見^{けん}鶴^{かく}翔^{しょう}

行 集王(字) 聖教序 (指定箇所より20字を臨書)
草 臨書 書譜

かな条幅部

第一種 (一枚) 小画仙紙半切にたて長に使用 料紙可

第二種 (計二枚)
創作 窓あけて見ゆる限りの春惜む (高田蝶衣)

創作 たちそむる霞の衣うすけれど春きてみゆる四方の山の端 (藤原公経)

ペン字部

第一種 楷 (一枚)
第二種 楷・行 (計二枚)

良寛の書は、自作の詩や和歌を書いたもの、あるいは手紙など、いづれも飄々とした筆致で脱俗の趣がある。

四、名前のかき方

◎どの部も氏名または名、号を書く。印だけでは失格、特になか・ペン字は注意のこと。

五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
- 第二種 二、〇〇〇円
- 第三種 三、〇〇〇円

◇昇級試験用振替口座、または現金書留で納入。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。
第一種は、最高秀級まで
第二種は、最高二段まで
第三種は、最高師範まで

七、応募手続

- 出品票はバーコード出品券を使用。作品の右下に、一枚毎につける。(二種には三枚つける)
- 現段級とは52号(4月号)の段級。作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
- 支部の方は、名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 個人で受験希望の方は、
①受験の申し込みをする
②申し込み先
〒101-0031 千代田区東神田1-16-1
7 芝崎ビル3階(財)書道芸術院
書道芸術編集部・特別昇級試験係(宛)

80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。

③送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

④備考
・受験申込み締切りは4月30日。
・応募書類は5月1日以後に発送。